

世界とのつながり ～グローバル化に向けて～

1. 大学の役割

大学の役割は「人財育成」であると考えた。具体的には、以下の2つの能力を持っている人財を育成することと定義した。

- ・人のネットワークを自ら築き、道を切り開くことができる。
- ・幅広い視野と積極性を持つことができる。

これらの能力については、学生のみでなく、教員・職員も含めて高めていく必要があると考えた。そのために大学としてすべきことは、以下の2点である。

- ・ネットワーク（人とのつながり）を広げる機会を提供する。
- ・グローバルな視野を持つチャンスを増やす。

2. 大学の現状

現在各大学では「日本人学生と留学生との交流」「留学プログラム」「地域連携」「グループ学習室の利用」「友達づくりイベント」など様々な取り組みが行われている。しかし現状では「ネットワーク」「グローバル」への取り組みがまだ十分でないと考えた。

3. このテーマを選んだ理由

ICTによるネットワークは非常に大切であるが、人と人とのつながりも、いつの時代においても大切であると考えた。とりわけ大学という場所は「学生」「教員」「職員」という立場の違う3者に加え、「地域」「社会」「企業」など様々なつながりを得ることができる場所である。



さらに、少子・高齢化時代の進行に伴い、これからは日本だけに目を向けているのではなく、幅広い視野を持つことが求められている。

したがって、大学に集う様々な人たちがネットワークを広げ、グローバルな視野を持つことが大学の理想の形と考え、このテーマを選んだ。

4. 問題点の深堀・解決策の検討

現状の取り組みについてどのような問題があるのか洗い出しを行った。

- ・「日本人学生と留学生との交流」留学生のフォロー団体の整備、文化や宗教の障壁

- ・「留学プログラム」 経済的・学力的問題、海外の文化に興味を持たない学生
 - ・「地域連携」 近隣の方々が留学生を敬遠しがち、大学と地域の連携イベントの少なさ
 - ・「グループ学習室の利用」 教職員によるフォローができていない
 - ・「友達づくりイベント」 新入生対象以外に実施する機会が少ない、学生の孤立化
- その結果、「現在の大学の取り組みは参加することに対するハードルが高く、参加する人間が限定的になっている」ことが問題であるという結論に達した。したがって、「身近な物事を扱うことで、参加することへのハードルを下げる」ことが解決策になると考えた。

5. 大学のイノベーションの提案

身近な物事を考えた際に、初めに思いつくのが衣食住である。今回はこの中でも大学内で最も身近な行為である「食」に着目した。大学での「食」の場所である学食を利用し、食文化の異なる留学生も含めた交流機会として、以下のようなカリキュラムを提案する。

「食を通じたネットワーク作り」

- ・LTD等のアクティブ・ラーニングを用いた授業で、異文化について学ぶ。その後、学んだ国の料理のレシピを考え、学食で提供していただけるようプレゼンテーションを行う。
- ・留学生には、授業内で自国の文化について話をする、料理のレシピのアドバイスをする等の形で授業に参加してもらう。
- ・学食や留学生など、受講生以外に対するフォローを職員が行う。したがって、カリキュラムを作る際には教職員が共同となって考える必要がある。
- ・学食で他国の料理を出す日は地域の方々にも開放する。また、評判の良いものは大学祭で販売する。

このイベントにより、「学生と留学生」「教員と職員」「大学と地域」など様々なつながりを実感することができ、なおかつ身近に世界に目を向けることが可能になると考える。また、受講生のみならず留学生の主体性の向上にも繋がると考えられる。

6. まとめ

今回の計画には「卒業生」の参加という部分では課題が残った。これについては、今回の提案はあくまでも大学の役割を果たすための方策の1つに過ぎないので、他の方策の中で卒業生とのつながりを作ればよいと考える。

また、3日間にわたるグループ討議の中で、我々も新しいつながりを作ることができ、さらに各大学におけるグローバル化に関する取り組みについて情報交換できたことが大きな収穫となった。